

都立大森高等学校（全日制課程）

【校長】 池田美穂
【生徒数】 260名
【学級数】 14学級



【実態・目標】

- 基本的な生活習慣が身に付いていない。
⇒健康についての正しい知識をもつ。
- 喫煙、飲酒、カラーコンタクトの装着、ボディピアスなど、健康を損なう可能性のある行動に関する指導が必要である。
⇒将来の自分を想像し、生涯に渡って健康であるための力を養う。
- 自己肯定感の低い生徒への支援が必要である。性に関する正しい知識が不足している。
⇒自立して生きていくために、自分を大切にす気持や他者を尊重する態度をもつ。性について科学的根拠に基づいた正しい知識を身に付ける。

目標

・心身ともに生涯健康でいられるために基本的な生活習慣を身に付けよう

【課題・改善】

- 知識の定着不足のため、生活習慣の乱れやリスク行動の多さはなかなか減少しない。また、繰り返し指導を受けることで自己肯定感が低くなる生徒が多い。

⇒【今後の取組】

- 行動変容には時間を要するため、継続的な取り組みが必要である。外部講師による講演会や体験型授業の機会を多く取り入れることで、知識の定着を図る。

【取組】

- 教科における性教育
保健や家庭総合の授業において、生徒が主体的に生涯の健康について考えることができるように体験学習を取り入れる。
- 教員の指導力向上のために全国性教育研究大会への参加・校内研修の実施
教科横断的な性教育の必要性について協議を行った。
- 産婦人科医を招へいた授業の実施
2学年を対象とした公開授業を実施した。専門家から直接話を伺うことで「自分の体を大切にすること」や「将来を見据えた選択をすること」への意識が高まり、生徒の価値観形成に大きな影響を与えた。

【成果】

- 生徒の意識に関する成果
公開授業後のアンケートでは、避妊や、性感染症予防の大切さについて回答した生徒が多くみられ、授業の理解度は9割を超えていた。
- 生徒の態度に関する成果
授業後のアンケートでは、行動変容への影響があったと回答した生徒が全体の9割弱であった。知識を行動に移したいと考える生徒が多かった。
- その他（教員・保護者からの感想）
・他学年でも産婦人科医等による講演を取り入れてみたいという意見が挙がった。
・保護者からは、成人を迎える前に性の授業を受けることの意義を実感したとの声があった。

【取組（詳細）】

○教員の指導力向上のための取組み 全国性教育研究大会への参加及び校内研修の実施

- (1) 第53回全国性教育研究大会札幌大会
(7月26、27日)へ参加

<基本テーマ>

- ・「自分らしく生きる未来を拓く性教育～性の現代的な課題への対応を踏まえた指導の在り方～」
 - ・「デートDV被害や性的被害の実態と特徴」
 - ・「性に関する教材・指導方法の工夫を考える」
- などのテーマの研修を受けた。



校内研修の様子

- (2) 校内研修(11月27日)

セミナー参加者による還元研修を行い、SNSを通じた性被害やデートDV等の防止教育について考えた。教科横断的な性教育の必要性についても話し合った。

○教科における性教育～保健～疑似体験を取り入れた授業の実施



水の交換実験の様子

保健では、性感染症について広がりを経験的に学ぶ授業を行った。コップに入った水を交換し合うことを性行為とみなし、「誰が感染源か分からない」という状況や「不特定多数との性行為」におけるリスクを実感した。全体の約9割のコップの水が変色した結果をみて、生徒たちは、自身の行動が感染拡大にどう影響するか、また予防の重要性を学ぶことができた。

○産婦人科医を招へいた公開授業の実施

- (1) 日時: 令和7年10月29日(水)
- (2) 対象: 第2学年全生徒 86人
- (3) 講師: 産婦人科医

<授業の主題>

『皆さんに知って欲しいプレコンセプションケアと性について』

<生徒の感想から>

- ・性に関する知識が不足していることに気づいた。
- ・性感染症の予防についてもっと知りたいと思った。
- ・『性』は身体だけでなく心や考え方も含まれると初めて知った。

★授業による理解の深まりが「あった」と回答した生徒…92.4%

★今後の行動や考え方に影響が「あると思う」と回答した生徒…89.4%



産婦人科医による公開授業の様子